

お堂と信仰

匠探訪

149

現在見られる菩提寺と檀家の関係は、江戸時代初期からの幕府の政策から生まれたものです。

市内の寺院の本堂や仏堂は、檀家制度が定着化する中で村人の寄進で建てられるようになりました。現存するお堂は、制度が始まって50、60年経た1700年以降のものがほとんどです。

そうした中で、市指定

文化財の貝塚区(豊栄地区)宝光寺の阿弥陀堂は1671(寛文11)年に貝塚村や新村をはじめ近隣40数か村の寄付で建てられました。寺の記録によると、関係した村々は現在の横芝光町から多古町に及んでいます。本尊の御利益を熱心に呼び掛けた寺関係者の信仰心が

しのばれます。

それから100年後の1776(安永5)年に阿弥陀堂は再建されましたが、関わった村は5か村で、寺院本末制度が確立し、同寺の末寺が存在する村だけとなり、この間の変化が見て取れます。宝光寺には他に弘法大師をまつる大師堂があり、1686(貞享3)年に同村の女人衆をつくる「十九夜念仏講」の人たちにより建てられました。市内には多くの十九夜講中が存在しましたが、これほどのお堂を建てた信仰心には驚かされます。宝光寺は1399(応永6)年創建と伝わる由緒ある寺院です。それにふさわしい県指定文化財の仏画や、1820年ごろに同寺住職が立てた芭蕉句碑などもあります。周囲の緑に包まれた中に古寺の風情が感じられる所です。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080



市の指定文化財・宝光寺阿弥陀堂